

RIVERFRONT

人と川とのふれあいを求めて。

2004 Vol.50



平成15年度より暫定運用を開始した紀の川大堰(写真中央、右上)。三種類の形式の魚道が左右岸に設置されている。
写真左下は左岸側の階段式魚道に設けられた魚道観察室から見たアユの遡上の様子 (写真:和歌山河川国道事務所提供)

CONTENTS

特集 魚がのぼりやすい川づくり

巻頭言「河川環境管理の歴史と今後」	1	河川環境に関する人材育成及び情報ネットワークの形成について	33
魚がすみやすい川を目指して	2	平成15年度宝くじ助成事業成果概要	37
魚がすみやすい川について考える	6	「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介	38
多摩川における魚がのぼりやすい川づくり	11	岐阜分室便り「長州藩の治水工事」	39
信濃川における魚がのぼりやすい川づくり	14	万葉の川心(第46回)	40
紀の川における魚がのぼりやすい川づくり	19	新刊図書の紹介	41
揖斐川上流域における魚にやさしい溪流づくり	23	出版物案内	42
研究報告			
北川の「魚がのぼりやすい川づくり」から「魚がすみやすい川づくり」へ	26	案内	
身近な水域における魚類等の生息環境改善について	28	月刊誌「FRONT」大幅リニューアルと値下げ	43
宮中取水ダムの魚道改善について	29	講習会案内	
海外調査報告		「第12回リバーフロント研究発表会」	43
韓国清溪川復元事業調査	31		